

<産業精神保健学領域について>

指導教員：江口 尚、真船 井上 彰臣、真船 浩介

産業精神保健学は、産業医学の中で、特に労働者の精神保健を扱う領域である。メンタルヘルス不調例の一次予防（未然予防、不調の二次予防（早期発見と早期対応）、三次予防（職場復帰支援）と、幅広い活動を対象とする。「特論」では、本領域全般について、その専門的な知識と技術、研究手法などを教育し、実践の基本を踏まえ、それを発展応用していく能力を修得させる。「演習」では、理論的演習、事例検討をはじめとする多彩な機会を通して、本領域の知識・技術を実践的に修得させる。「実習」では、具体的な研究方法、研究倫理等に関する議論を通じて、特に本領域に関連の深い科学的な思考、リサーチマインドを醸成する。「論文指導」では、得られた研究結果に対して多角的に議論を繰り返す、研究のまとめ方、論文の構築の仕方を系統的に修得させる。

本領域の特色は、事業場の特色を十分に理解した上で人事労務管理部署や事業場外の関連資源と有機的な連携を図ることが重要となる点である。この科目を通して、本領域の特色を踏まえた課題解決能力を付与する。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

産業精神保健学領域で想定される研究テーマは以下の通りです。

- 当研究室が開発した2つのツール（WINおよびMIRROR）を用いた労働者参加型の職場環境改善に関する観察研究や介入研究
- 労働者のストレスおよびメンタルヘルスと職場適応、職場環境改善に関する観察研究や介入研究
- 長時間労働と労働者の心身の健康との関連に関する観察研究
- 治療と仕事の両立支援に関する観察研究や介入研究
- 職場の差別が障害や疾病と精神的健康との関係に与える影響に関する観察研究
- 主に既存のデータベースやインターネット調査によるデータを活用した職場の心理社会的要因と労働者のメンタルヘルスに関する観察研究
- 「放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究」の心理的影響の部分を活かした原発緊急作業員を対象とした調査研究
- その他

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、2つ以上の項目を満たすこと

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。

- 想定される分析手法を理解している。
- 何らかの学术论文を執筆した経験がある。

必ずしもオリジナルデータを収集する必要はなく、希望者の研究テーマに沿っていることを前提に研究室にあるデータを活用した研究も可能です。オリジナルデータを収集する場合には、上記の条件に加えて、明確な研究テーマがあることを希望します。

問い合わせ先：産業精神保健学研究室 代表メールアドレス

j-seihkn@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

IR推進センター 代表メールアドレス

irsc@mbox.med.uoeh-u.ac.jp